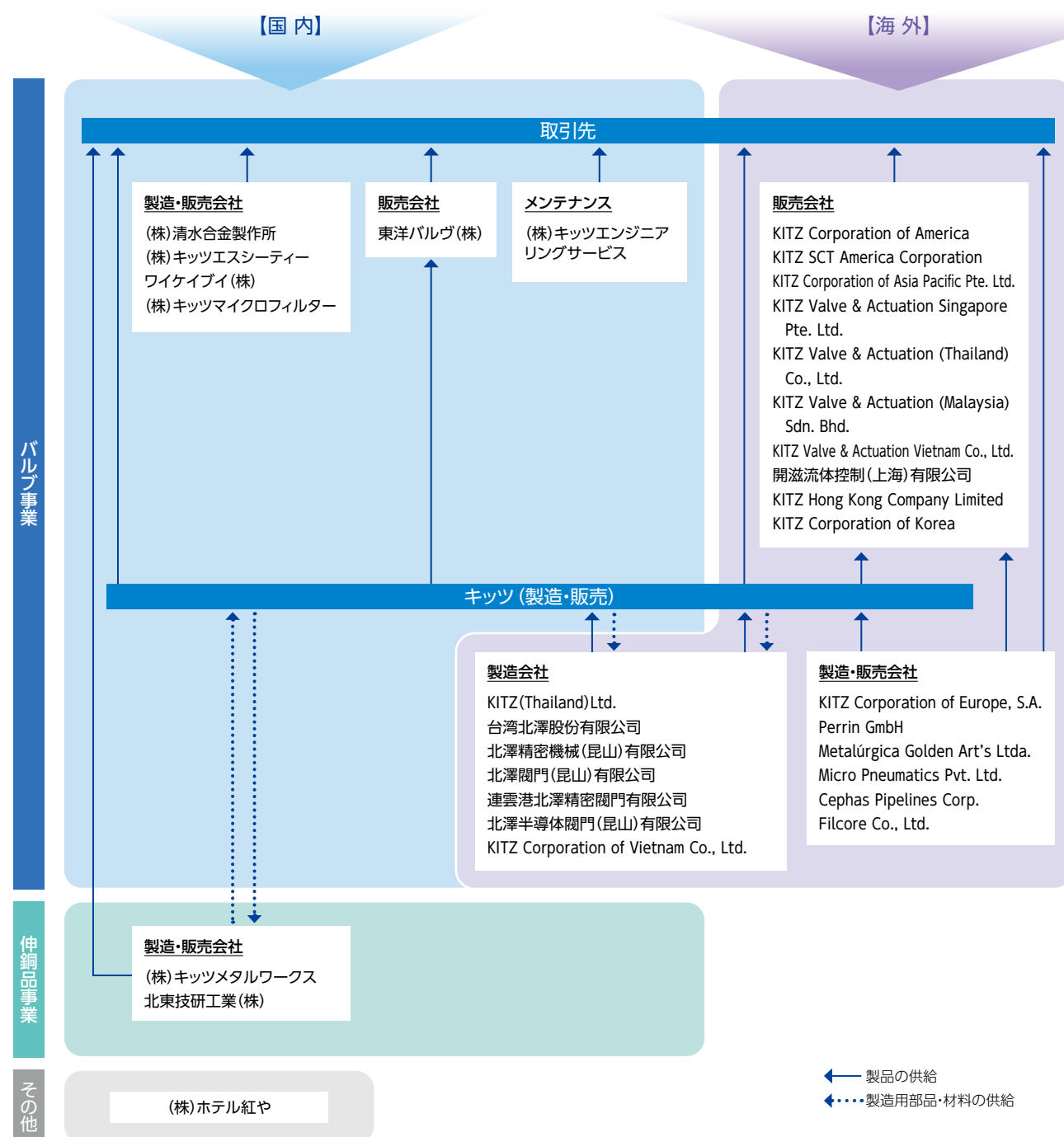


キッツグループは、流体制御機器であるバルブを中心に、継手、浄水器及び工業フィルターを製造・販売するバルブ事業、水栓金具やガス機器、家電製品の部材等の素材として使用される黄銅棒の製造・販売を行う伸銅品事業、ホテル等を運営するその他の事業を展開しています。

これからもバルブを中心とした流体制御機器の総合メーカーとしてさらなる成長を目指します。

● キッツグループの事業推進体制の概要（2023年3月31日現在）



バルブ事業

売上高構成比 **78.3%**

強み

総合バルブメーカーとして幅広く製品を提供

多くのバルブメーカーが限られた市場・分野に特化したり、材質や形状を絞って製品を製造・販売したりする中で、キッツグループは、青銅・黄銅やステンレス鋼、鋳鉄、鋳鋼等の様々な材質や形状のラインナップを有し、私たちの生活空間から産業分野まで、総合バルブメーカーとしてあらゆるフィールドに多彩な製品を提供しています。

高品質のKITZブランドを確立

グループ内に、バルブの主要材料に対応する鋳造設備を持ち、素材の選別から鋳造、加工、組立、検査までの一貫生産体制を基本に製品づくりを行っています。素材からの品質保証体制を築くことにより、「KITZ」ブランドは、信頼のブランドとしての地位を確立しています。

高い市場占有率

国内市場においては、日本全国をカバーする代理店網により、お客様の声に即応できる強固な販売ネットワークを確立しています。これにより、特に青銅・黄銅製及びステンレス鋼製バルブは、高いシェアを有しています。



伸銅品事業

売上高構成比 **20.3%**

強み

長年培ってきた合金技術を活かした新素材開発

バルブの素材となる黄銅棒の製造からスタートした事業です。現在では、マーケットニーズや時代の要請に応え、耐脱亜鉛腐食黄銅棒や鉛レス黄銅棒等、人にも環境にも優しい新素材の開発・販売を積極的に行っています。

● 売上高構成比は2022年12月期

バルブとは

バルブは、配管内の流体(水・空気・石油・ガス等)を流したり、止めたり、流量をコントロールする機能を持つ「流体制御機器」の総称です。

バルブの起源は、紀元前1000年頃の古代エジプト遺跡から発掘された、木製のコックまでさかのぼると言われています。1800年代半ばに紡績用ボイラーが輸入された頃、日本で金属製のバルブが初めて使われました。明治になり、水道事業や都市ガス事業がスタートしたことに伴い、日本でバルブの製造が始まりました。

今日では、上下水道、給湯、ガス、空調等、私たちの身近な生活フィールドから、石油、化学、医薬品、食品等、あらゆる産業分野の生産プロセスに至る様々なパイプに接続され、重要な役割を担っています。私たちは日常生活の中でその存在を意識することはあまりありませんが、バルブは人々の暮らしを陰からしっかりと支えています。



その他

売上高構成比 **1.4%**

強み

上諏訪温泉で最大級の規模を誇るホテルを運営

長野県諏訪市の「ホテル紅や」を中心とするサービス関連の事業です。ホテルのほか、中央自動車道(下り)諏訪湖サービスエリア及び上信越自動車道(上り)東部湯の丸サービスエリアも運営しています。

バルブ事業統括本部長メッセージ



成長市場に向けた取り組みを加速させ、
事業ポートフォリオの変革を
目指してまいります。

小出 幸成

執行役員 バルブ事業統括本部長

当期(2022年度)のバルブ事業の業績

2022年度は、新型コロナウイルス感染症対策が世界的に進んだことによる経済活動の回復の流れが見られた一方で、中国のゼロコロナ政策やロシアによるウクライナ侵攻の影響等により、サプライチェーンの混乱、エネルギー資源・原材料価格の高騰や円安進行等、厳しい状況が継続しました。このような状況の中、バルブ事業においては、半導体製造設備向けの好況が国内・海外とも継続したこと、原

材料価格高騰の影響を受けて実施した価格改定の効果、米州向け・アセアン向けを中心とした増収及び為替影響により、売上高は計画を上回ることができました。

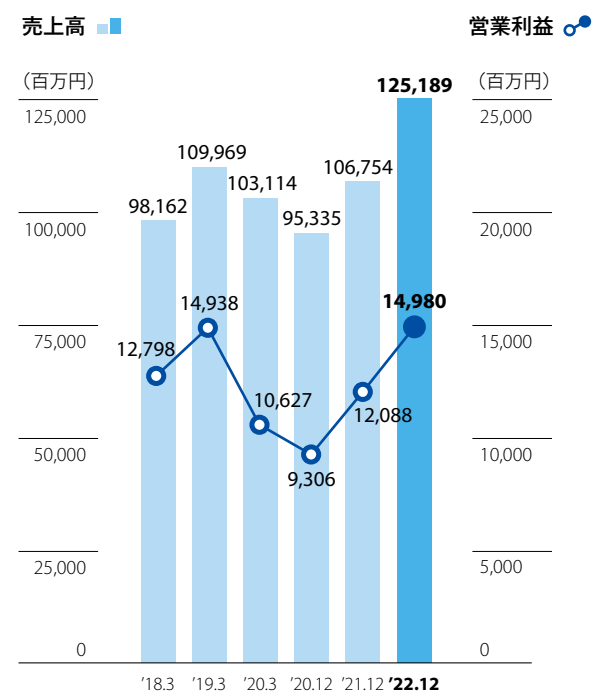
損益面においても、原材料価格高騰を価格改定効果でカバーするとともに、半導体製造設備向けの好調、景気回復に伴う国内及び海外市場における増収等により増益となりました。

これらの結果、バルブ事業セグメントの売上高は、前期比184億34百万円増の1,251億89百万円となりました。営業利益も前期比28億92百万円増の149億80百万円となり、売上高・営業利益ともに過去最高を更新することができました。

長期経営ビジョンの達成に向けて

長期経営ビジョンでは、コアビジネスのさらなる深掘りと、成長市場に向けてのリソースの投入によって、売上・利益の拡大を目指す方針を掲げています。第1期中期経営計画では、キッツグループが得意としている建築設備、石油化学、水処理及び機械装置をコアビジネスと位置づけ、その基盤をさらに強化して確固たる土台を築く一方、社会課題の解決のためのキーワードである「デジタル化」、「脱炭素化」に向けての成長市場にリソースを投入します。具体的には、半導体装置、半導体材料(フィルター)、機能性化学及び水素／低炭素を中長期のターゲット市場に定め、ビルシステム事業推進部、インダストリアル事業推進部及びファインケミカル事業推進部がターゲット市場ごとの事業戦略を遂

● バルブ事業セグメントの売上高・営業利益



・決算期変更の変則期間である2020年12月期は2020年1～12月を「前年同一期間」として算出した参考数値(監査対象外)を表示。
・バルブ事業の営業利益は全社費用等消去前の数値。

行しています。さらに、2023年1月には、役員直轄の組織として水素事業部、環境ソリューション事業部を設置しました。水素／低炭素市場では将来的な市場形成に合わせた事業拡大の準備を進め、水処理市場では「Design Future with Water ～水と共に未来を創る～」を合言葉に、キッツグループが有する水関連技術や商品・サービスを活かし、お客様にソリューションを提供しています。それぞれの成長市場に向けた取り組みを加速させ、資源配分を明確化し管理することで、事業ポートフォリオの変革を目指してまいります。

水素分野への取り組み

キッツは、2012年7月より、燃料電池自動車等に、燃料となる水素ガスを供給する水素ステーション用バルブの販売を開始、2020年4月からはパッケージユニット型水素ステーション事業に参入しています。参画しているNEDO*による「超高圧水素インフラ本格普及技術研究開発事業における、水素ステーションのコスト低減等に関する技術開発」及び「水素社会構築技術開発事業における、液化水素用大型バルブの技術的開発」を通じた取り組みが評価され、経済産業省より「ゼロエミ・チャレンジ企業」の1社に選定されています。

また、川崎重工業株式会社様は、NEDOから公募された「グリーンイノベーション基金事業／次世代航空機の開発プロジェクト」に、「水素航空機向けコア技術開発」を提案し採択されていますが、2021年11月、キッツは本事業への参画企業として、川崎重工業様より「水素航空機向けエンジン燃焼器・システム技術開発」及び「液化水素燃料貯蔵タンク開発」におけるバルブの技術開発の再委託を受けました。本技術開発を通じて次世代航空機の実現に寄与することを目指すなど、成長市場の一つである水素分野への取り組みを進めています。

*NEDO:国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

モニタリングサービスを開始

国内では、高度経済成長期に建設され、現在もなお現役で稼働しているプラントが数多く存在しています。稼働年数が長くなるに従い、老朽化に伴うトラブルや事故のリスクが高まることから、安定操業を実現するための定期点検や

メンテナンス等の保全業務の重要性が増えています。一方、保全業務の現場では、熟練技術者及び技能者の高齢化や労働人口の減少、さらには感染症拡大の影響等への対応が求められており、その解決策として、人手に頼らない設備故障の未然防止策が必要とされています。キッツは、独自のセンシング、AI及びIoTによる技術を活用し、プラントや工場におけるバッチ処理生産プロセス向けに、バルブの異常の予兆検出を行うモニタリングサービスとして「KISMOS (KITZ SMART MONITORING SYSTEM: キスモス)」の提供を開始しました。これにより、バルブの選定から計画的なメンテナンスまで、トータルにお客様をサポートする体制が整いました。今後はソリューション提案型ビジネスに本格的に挑戦してまいります。



センサ等の機器を搭載したバルブ

バルブ業界のリーディングカンパニーとして

バルブ業界のリーディングカンパニーとして長年培ってきた高度な技術と豊富な実績を活かし、お客様の様々なニーズにお応えするための活動を進めています。キッツでは、自動弁及びバルブの金属材料に関して、一定の技術知識レベルに達した社員をバルブマイスターとして認定する制度を導入し、お客様からのご相談に対して、具体的な解決策をご提案しています。

また、バルブを取り扱う商社をはじめ、工事店、お客様やプラント関連会社等に向けて、バルブ技術の基礎を習得する研修プログラム(集合研修／オンライン)を開催しています。バルブの分解・組立、配管、自動弁の流量試験等の実習や、豊富な実務経験のあるベテラン技術者による講義を通じて、業界全体の知識や技能の向上に寄与してまいります。

KITZ Group + Water

世界の水インフラ需要に応えるために

水の安定供給を支える

水は、私たち人類をはじめ、植物や動物等、地球上のすべての生き物にとってなくてはならない生命の源です。キッツグループは、安心してお使いいただける商品・サービスの提供を通して、清潔で安全な水の安定供給を支え、人々のゆたかな暮らしに貢献しています。

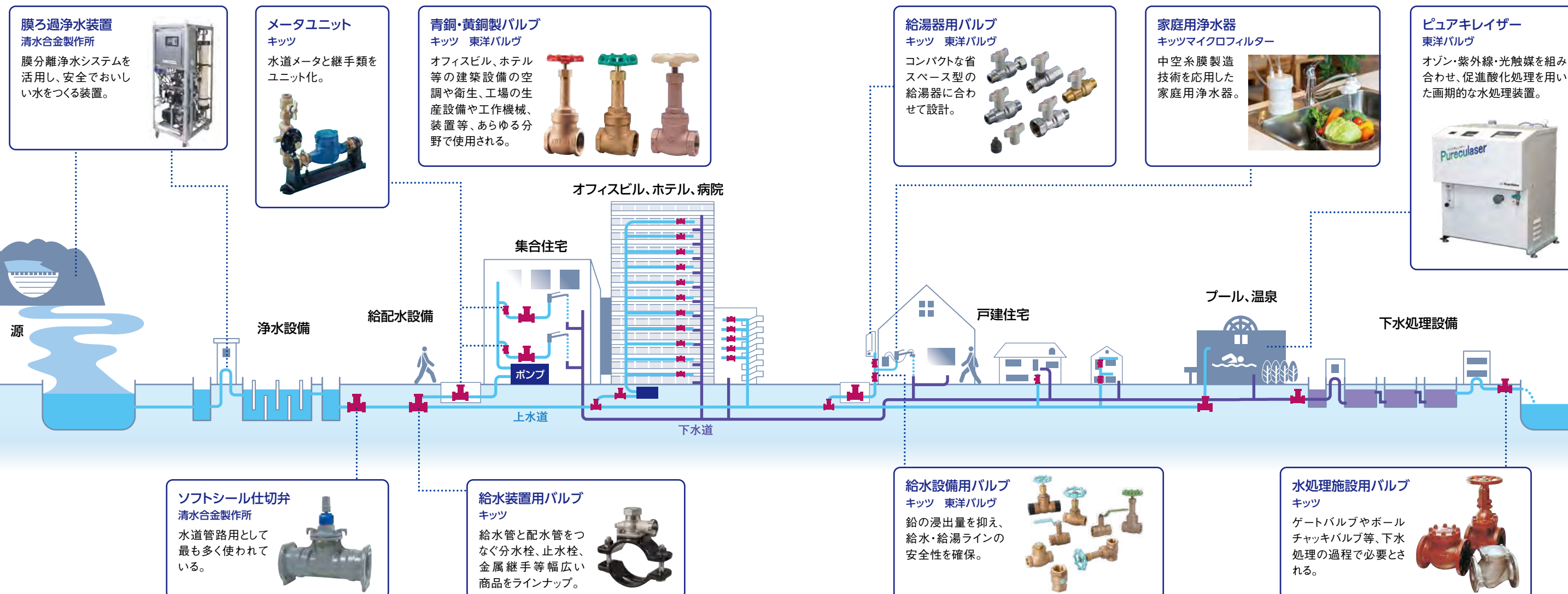
水処理技術の進化

膜を使って水をきれいにする「浄水」の技術、海水等の飲用に適さない水を浄化・淡水化する「造水」の技術、さらには半導体市場の拡大を背景に純水や超純水に対応する技術等、キッツグループが持つ世界の水インフラ需要に応える技術は着実に進化しています。

水に関する問題の解決に向けて

バルブからニッケル、鉛が溶け出すのを防ぐ表面処理技術や鉛レス銅合金材料等、環境に配慮した技術開発を積極的に行い、国際的な水質基準に応えるほか、オゾン、紫外線及び光触媒により、水に溶けた有機物を分解する装置、あらゆる原水に対応する浄水装置や家庭用浄水器等の商品も展開しています。

世界では、水資源や水不足に関する深刻な問題が起きています。キッツグループは、すべての人々が清潔で安全な水を利用できるよう、グループの力を結集し、長年培ってきた経験、技術を通して、世界の「水に関する問題」の解決に貢献していきたいと考えています。



KITZ Group + Energy

産業を動かす大切なエネルギー資源を 絶え間なく送り続けるために

エネルギーの安定供給を担う

産業を動かすエネルギーは、欠かすことのできない大切な資源です。キッツグループは、石油精製・石油化学プラントやガスパイプライン、LNG(液化天然ガス)基地等のプロセスラインに、エネルギーの安定供給を担う商品を提供しています。

過酷な環境で流体を制御

エネルギープラントでは、高温・高圧の流体が配管を流れるため、過酷な環境に耐えられるバルブが求められます。キッツグループでは、流体の種類や温度、圧力等、厳しい使用環境を想定した様々な試験や分析・評価を繰り返し行い、この厳しい条件をクリアした商品だけがラインナップに加えられます。

クリーンなエネルギー社会に向けて

カーボンニュートラルに向けたエネルギーの脱炭素化が加速する中、石炭や石油に比べ燃焼時の二酸化炭素排出量が少なく地球温暖化抑制に寄与するLNG(液化天然ガス)や、次世代エネルギーの本命といわれる水素に関心が高まっています。特に水素については、大量輸送のための液化水素向け大口径バルブの開発に着手するなど、そのサプライチェーン全域にキッツグループのバルブを供給することを目指しています。

再生可能かつクリーンなエネルギーが世界中のすべての人々に届くよう、脱炭素社会の実現に貢献するための製品開発に力を入れています。



メタルシートボールバルブ Perrin GmbH

高温流体や摩耗性流体にも対応可能。耐久性も高い。



ステンレス鋼製バルブ キット

耐食性に優れ、化学プラントや石油化学工業で幅広く使用される。



空気圧式・電動式自動操作バルブ キット

アクチュエータを搭載した自動操作バルブ。



全溶接形鍛鋼製ボールバルブ キット

漏れを確実に防ぐ安全設計のパイプライン用ボールバルブ。



水素ステーション用 超高圧ボールバルブ キット

優れた封止性能と耐久性を持つ水素ステーション用超高圧ボールバルブ。



高純度ガス用バルブ キットエスシーティー

半導体製造用のクリーンなステンレス製ダイヤフラムバルブ及びベローズバルブ。



原油・天然ガス
掘削現場

原油

ガス

石油精製・石油化学プラント

LNG(液化天然ガス)基地・
搬送設備

火力発電所

水素ステーション

半導体
製造設備

3ピース・トラニオンボールバルブ KITZ Corporation of Europe, S.A.

石油精製から石油化学産業まで、化学、ファインケミカル、エネルギー分野で幅広く使用される工業用フローティング・トラニオンボールバルブ。



鋳鋼製バルブ キット

各種プラントの高温・高圧の条件下での使用に適している。



小型自動操作バルブ キット

産業用生産プロセスラインでの小口径配管ラインの自動化ニーズに対応。



LNG用低温調節弁 ワイケイブイ

米・VALTEK INCORPORATED (現FLOWSERVE CORPORATION)の技術に基づいたLNG用低温調節弁。



低温用バルブ キット

LNG製造・受入れ・サテライト基地向けをはじめ、エチレンプラント、工業用低温ガス等に対応。



精密ろ過フィルター キットマイクロフィルター

半導体や医療に貢献する微細孔径、低溶出の中空糸膜フィルター。



高付加価値を生み出す研究開発体制

時代が求める多様なニーズにお応えするため、「安全性」、「耐久性」、「信頼性」を誇る流体制御機器を生み出しています。

研究開発のコンセプト

キットグループの技術部門は、キット宣言「わたしたちは、流体制御技術と材料開発で社会インフラを支え、ゆたかな地球環境と持続可能な未来を創造していきます」を実現するために、積極果敢に研究開発に取り組んでいます。

■コアテクノロジー

バルブの核となるシール技術、素材及び工法技術における一貫した要素技術開発

■ソリューション提供

お客様や市場の困りごとに密着し、お客様に喜んでいただける商品・サービスを提供

■スピード&グローバルネットワーク

世界各地域のお客様の多様なニーズにお応えする、国内外のグループネットワークを活用した迅速な製品開発

次世代に向けたソリューションを提供するために

創業70周年記念事業の一環として、茅野工場敷地内に建設した「KITZ Group イノベーションセンター」が、2022年3月に稼働を開始しました。

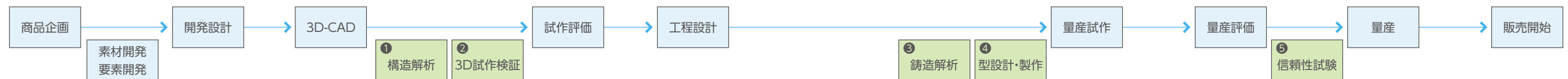
開発、設計部門の執務スペースのある2階は、ミーティングスペースが充実しており、アクティビティベースドワーキング(ABW)※の導入により、自由で柔軟な発想や知見の交換が促進される空間となっています。

また、3階には創造的な発想で新たな価値を生み出す「デザイン思考」を実践するための「イノベーションスタジオ」を設けており、ここを起点に、お客様に喜んでいただける革新的な商品やサービスをスピーディーに提供してまいります。

※ABW:その時の仕事内容に応じて、働く場所を選ぶワークスタイル



●バルブの研究開発工程



流体解析



構造解析



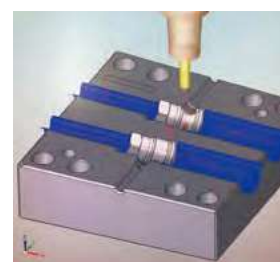
②3D試作検証

3Dプリンター造形により、早期に試作品での検証が可能。お客様が触れられるサンプル品としても活用。



③鋳造解析

凝固解析により鋳造に最適な型の方案設計を行う。



④型設計・製作

型設計を行ったCAM※データが加工設備に反映し、自社内で型を製作する。

CAM

①構造解析

シミュレーションによる流体解析や応力等の構造解析を用い、製品の最適な構造を導き設計を行う。

世界のユーザーの信頼に応えるトップレベルのテクノロジー

キットグループの開発設計部門は、建築設備、石油化学、クリーンエネルギー、水処理及び半導体等の幅広い分野で、お客様に価値を提供できるよう研究開発に取り組んでいます。

グループのシナジーを最大限に発揮するため、日本をはじめ、欧州、米州、アセアン及び中国の技術者が協働し、グループウェア等のネットワークを活用しながら製品の開発設計を進めるなど、各地域の人財や技術を活かした世界最適設計の技術体制を確立しています。また、各国の市場や法規制に適合する素材及び仕様による製品開発も展開しているほか、PLM※の活用により、製品、設計図面及び部品表を一元管理し、マーケットニーズに応じた製品開発を推進するなど、DXの積極的な導入による効率化にも取り組んでいます。

時代が求める多様なニーズにお応えするため、技術者一人ひとりがスキルを高め、日々、価値創造に挑戦し続けることによって、卓越した「安全性」、「耐久性」、「信頼性」を誇る流体制御機器を生み出しています。

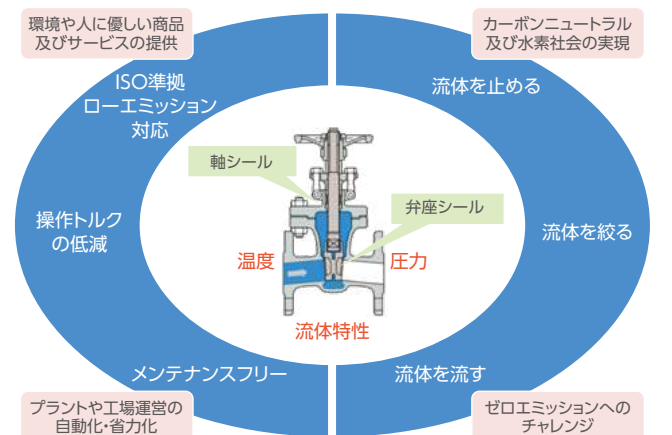
※PLM : Product Lifecycle Management

幅広い分野でライフラインを支えるシール技術と材料開発

汎用バルブ単体の製造からスタートしたキットは、時代のニーズを先取りし、流体のオン/オフ制御から自動制御、そして単体から複合ユニットへと、高付加価値製品の開発に取り組んできました。

それを可能にしているのは、バルブの核となるシール技術と材料開発です。シール技術は、低圧から超高压、極低温から高温までの幅広い分野に展開され、これまで9万種を超える製品を生み出してきました。また、長い歴史の中で培われてきたノウハウにより、最適な金属材料を自社で開発し、それを高い鋳造技術により製品化してきました。これらの技術は現在も進化しています。

●バルブの核となるシール技術



⑤信頼性試験

あらゆる使用条件を想定した試験・分析を行う。



低温試験

LNGは低温の流体のため、低温状態を再現して試験を行う。



ファイアテスト

バルブのシール部材が完全に焼損するほどの火災にあっても、バルブとしての機能を維持することが可能であることを確認する。



ブローオフ試験

高温・高圧の流体制御では、バルブの開閉時に大きな力加わるため、使用限界条件下でのバルブの正確な作動を確認する。



ローエミッションテスト

国内では、唯一、API規格に基づくメタンガスによる試験設備を自社で保有。実際の流体を使用した外部漏れ試験を行う。

高品質を実現する生産体制

キッツグループのモノづくりは、お客様が必要とする商品を「必要な時に」、「必要な量だけ」、「より良い品質で」お届けすることを基本としています。

素材からの品質管理を実現した一貫生産体制

キッツグループはバルブの素材である鋳物(素形材)をコア技術と位置付け、社内で鋳物から一貫生産しています。バルブの主要材料である青銅、鋳鉄、ダクタイル鋳鉄、ステンレス鋼、鋳鋼、それぞれの鋳造設備をグループ内で持ち、素材からの品質保証体制の確立と多品種少量生産を実現しています。

マーケットインの発想によるモノづくりを支えているのが、「KICS(KITZ Innovative and Challenging System)」に基づく生産方式です。KICSは、売れるタイミングに合わせて工程順に1個ずつ製品を作ることで、後工程には良品しか流さない仕組みを確立するとともに、受注から生産、納品までの一連の工程における停滞や無駄の排除を実現しています。また、さらなる納期短縮を目指し、標準作業の徹底と工程改善による製造ラインの強化に継続して取り組んでいます。

長坂工場では鋳型製作用の3Dスキャナーを導入しています。長年、製造現場で使用されてきた鋳型には、技術者による鋳物製作のための工夫やノウハウが蓄積されています。これらのノウハウを3Dスキャナーでデータとして蓄積し

活用することにより、社内における鋳造技術の標準化と品質向上、さらには鋳型製作から製品完成までのリードタイムの短縮を実現し、お客様へのサービス向上につなげています。



3Dスキャンされた鋳型

環境に優しく、付加価値を生み出す製造現場に

キッツは、地球に優しく持続可能な生産プロセスの実現を目指し、環境改善に向けた新しい生産技術の研究開発を積極的に進めています。鋳造工程で使用する砂の再利用や、バルブの検査等で使用される水資源の循環利用、環境に優しい塗料の研究等にその取り組みを広げています。お客様と社会全体に新たな付加価値をいち早く提供できるよう、2022年に稼働を開始した茅野工場敷地内のKITZ Group イノベーションセンター内に研究ラボを新設し、これらの技術研究についての取り組みを加速させています。



KITZ Group イノベーションセンター 研究ラボ

品質マネジメントシステムに裏付けられたキッツブランド

キッツは、品質マネジメントシステムの重要性にいち早く着目、1989年11月、日本企業で最初にISO9001の認証を取得しました。現在では、キッツグループにおける国内外すべての生産拠点においてISO9001の認証を取得し、国内においては、本社、長坂工場、伊那工場及び茅野工場で認証を継続しています。2019年2月には、グループ会社である株式会社キッツエンジニアリングサービスが、キッツグループでは初となる「バルブのメンテナンスサービス」の登録範囲において認証を取得しました。そのほか、2001年7月に日本のバルブメーカーとして最初にPED※1の認証を取得、その後、台湾、タイ、中国、スペイン、ドイツの生産拠点でも認証を取得しています。

こうした国際的な品質規格に加え、国内では、高圧ガス保安法に基づく大臣認定試験者、JIS※2製品認証やJWWA※3



研究ラボで環境に優しい塗料を研究

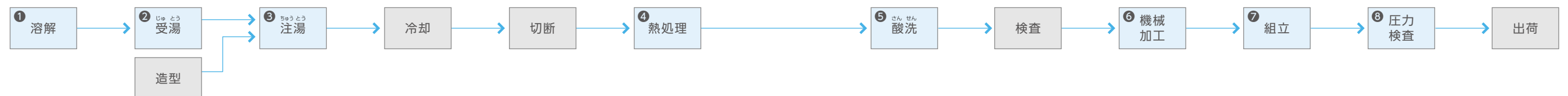
が定める規格、また、国内及び中国の生産拠点において、API※4のMonogram表示許可等を取得しています。

※1 Pressure Equipment Directive ※2 日本産業規格
※3 日本水道協会 ※4 アメリカ石油協会

世界最適地生産を目指したグローバルな生産ネットワーク

キッツグループは、グローバルな生産ネットワークの構築を進めています。国内工場は高付加価値製品の生産を行うとともに、グローバル生産拠点のマザー工場としての重要な役割を担っています。海外では、タイ、台湾、中国、韓国、インド、スペイン、ドイツ、ブラジルに生産拠点を設け、現地のマーケットニーズに的確かつ迅速に対応するための生産体制を構築しています。また、中国・台湾での生産の一部をベトナムに移管することを決定するなど、都度、生産体制の見直しを行っています。

● ステンレス鋼製バルブの生産工程



①溶解
原材料を高周波電気炉で溶かす。



②受湯
溶湯を取鋼に入れる。



③注湯
鋳型に溶湯を流し込む。上と下の型と中子のすき間に溶湯が流れ込む。



④熱処理(固溶化熱処理)
素材を1,100℃まで加熱した後、急冷(水冷)。これにより、均一な金属組織が得られ、引っ張り、伸び等の機械的性質(強度)を高めるとともに、耐食性を確保できる。



⑤酸洗
熱処理やショットブラストによる鋳肌表面の酸化スケール等の汚れを取り除く。併せて、鋳肌表面に保護皮膜を生成させ、耐食性をさらに高める。



⑥機械加工
切削や穴開け等の加工を行う。



⑦組立
バルブの各部品を組み立てる。



⑧圧力検査
流体を流して圧力を加え、要求品質を満たしているかを検査する。

広範で強固な販売ネットワーク

キッツグループは、国内においては創業当初より、全国をカバーする強力な販売網を確立してまいりました。現在では、お客様が求める品質、価格、納期、サービスのすべてにお応えするために、グローバルな販売ネットワークの構築を進めています。

充実した流通体制

日本全国をカバーする強力な代理店網により、お客様の声に即応できる販売体制を構築しています。これらの代理店とキッツは専用回線やインターネットでつながれ、マーケットの需要が生産の現場へ直接フィードバックされるとともに、業務効率の大幅な改善と業務のスピードアップを実現しています。また、各代理店が持つ在庫の基準量を商品ごとに定め、出荷された数量を日単位で補充することにより、在庫量を一定に保つ後補充方式を採用。基準在庫を設定した商品の在庫量の把握が不要となるほか、即納ニーズへの対応も可能となります。



国内販売におけるキッツの強み

キッツは、私たちの身近な生活フィールドからあらゆる産業分野の生産プロセスに至るまで、多彩な商品を広範で強固なネットワークを通じて提供しています。

各市場のお客様が、採用するバルブメーカーを決定します。キッツは、お客様からのご要望に幅広くお応えするため、使用条件や困りごとを詳しくお聞かせいただき、最適なバルブを選定し、価格・納期について迅速にご回答しています。

納入後は、技術支援、部品供給及び現場点検修理等の、きめ細やかなサポートを通してお客様に寄り添い、さらなる信頼関係の構築に努めることにより、納入実績のある

お客様からのリピートオーダーや、既設のバルブに対するメンテナンスのご依頼をいただくなど、お客様とWin-Winの関係を築いています。

アフターサービスは、株式会社キッツエンジニアリングサービス(略称:KESCO)が担当しています。KESCOのサービス拠点と協力会社との連携により、全国各地にスムーズで幅広いメンテナンスサービスを提供しています。

KESCOは、ISO9001の認証を、「バルブのメンテナンスサービス」の登録範囲で取得しており、また、他社製バルブのメンテナンスにも適切に対応するため、海外を含むバルブメーカーから、バルブメンテナンスに関する認証・資格を取得しています。

KESCOは、人材の育成にも力を入れています。OJTによる教育では、ベテランと若手がチームを組み、実際のメンテナンス作業の中で、仕事を身に付ける体制を構築しています。資格取得のための支援制度も充実しており、玉掛、フォークリフト、ガス溶接、施工管理等、メンテナンスに必要とされる様々な分野の資格取得を、社員教育の一環として推進しています。

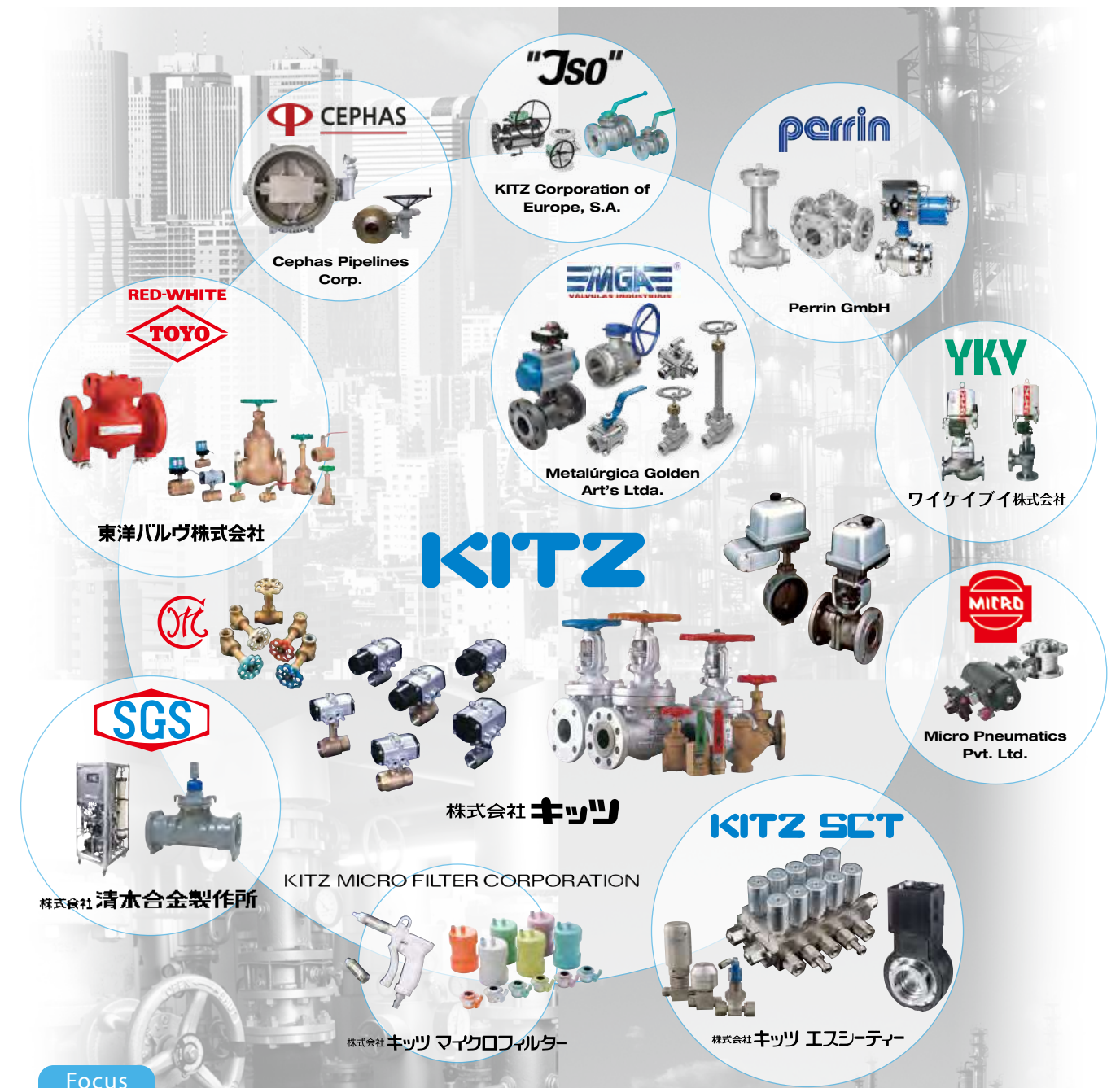
市場環境に応じた販売体制

海外市場では、それぞれの市場環境に応じた販売、サービス体制を強化しています。エリアごとに、販売、マーケティング、エンジニアリング、ストック、メンテナンス、サービスの機能を持ち、地域に密着した事業を展開し、現地のお客様にご満足いただける商品・サービスを提供しています。

インド、U.A.E.に駐在員事務所を置くほか、中国、香港、韓国、シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、アメリカ、ドイツ、スペイン、ブラジルに販売拠点を設置し、グローバルな販売ネットワークを構築しています。また、個別のご要望に迅速に対応するために、バルブの改造や修理を行う「キッツオフィシャルモディフィケーションショップ」網を展開しています。

信頼のブランド

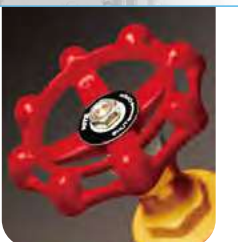
キッツグループは、多数の商品ラインナップを揃え、その品質は国内外のお客様から高い信頼を得ています。中心となるKITZブランドをはじめ、様々な市場、分野で使われる12のブランドを展開しています。



Focus

菊ハンドルは信頼されるバルブのブランド **KITZ** のシンボルです。

日本を代表する工業デザイナー 柳 宗理(やなぎ そうり)氏(1915~2011年)の協力により誕生したハンドルは、人間工学の観点からも握りやすさを追求。指がかりの形に、大輪の菊の花弁がもつ「ふくよかさ」をシンボライズさせているため、愛称を「菊ハンドル」としました。1980年9月から青銅製バルブのハンドルデザインに採用し、順次、ほかの製品にも展開してきました。



黄銅棒の製造・販売を担う

キッツグループは、黄銅棒及び黄銅加工品（切削品及び鍛造品）の製造・販売を行う伸銅品事業を展開しています。黄銅棒は、各種機械、建築資材等に幅広く使用されています。

黄銅とは

黄銅とは、銅（Cu）と亜鉛（Zn）の合金であり、銅と亜鉛の割合を変化させたり、様々な金属元素を添加することにより、電気伝導性、熱伝導性、耐食性、塑性加工性及び切削加工性等、多くの優れた特徴を持たせることができる金属です。



伸銅品事業について

キッツグループの伸銅品事業を担う株式会社キッツメタルワークスは、黄銅製バルブの素材を開発・供給するとともに、水栓金具、ガス機器、家電製品及び自動車部品等の素材として幅広く使用される高品質な黄銅棒と加工品（切削品、鍛造品）の製造・販売を行っています。

グループの北東技研工業株式会社は、切削品及びロウ付け加工品の製造・販売を行っています。

環境規制に対応する新製品

近年、世界的に環境負荷物質に対する規制が強化されています。特に、欧州では鉛規制が厳格化される方向にあり、鉛レス黄銅棒の需要拡大が見込まれています。

キッツメタルワークスは、従来から販売しているビスマス系鉛レス黄銅棒「キーパロイ」シリーズに加え、高いリサイクル性を有する「キーパロイII」シリーズの販売を開始。さら

に2019年には、三菱伸銅株式会社（現三菱マテリアル株式会社）とシリコン系鉛レス黄銅棒「エコプラス®」シリーズのライセンス契約を締結しました。「エコプラス®」は、JIS規格、欧州EN規格及び米国ASTM規格に登録されているグローバル材料であり、高耐食、高強度な性質を有しています。



エコプラス®

SDGs推進企業としての取り組み

キッツメタルワークスは、長野県SDGs推進企業として登録されており、SDGs達成に向けた様々な取り組みを行っています。その一つとして、2022年4月より水力発電及び太陽光発電由来の環境価値（非FIT非化石証書）を活用したCO₂フリー電力を導入しており、CO₂排出量は導入前に比べ約85%の削減を見込んでいます。

また、同社で製造する黄銅製品は、リサイクル性が高いことが特長です。より一層のリサイクル推進により、環境負荷の低減に取り組んでまいります。



黄銅棒の生産工程



「ホテル紅や」もキッツグループです。

創業者 北澤利男の生誕の地である長野県諏訪市。周辺には、キッツの茅野工場及び伊那工場のほか、キッツメタルワークス、キッツマイクロフィルター等、グループの生産拠点・事業所が数多く所在しています。

ホテル紅やは、上諏訪温泉で最大級の規模を誇り、眺望抜群の温泉展望浴場や充実した岩盤浴等、多彩な温泉施設が自慢のリゾートホテルです。観光客だけでなく、地域の方々の憩いの場としても利用されています。

また、中央自動車道（下り）諏訪湖サービスエリア及び上信越自動車道（上り）東部湯の丸サービスエリアも運営しており、地元の特産品を取り入れた料理の提供や、土産物の販売を行っています。



財務担当役員メッセージ



ROIC経営の推進により
中長期的な投下資本収益性の
向上を目指してまいります。

別所 研一

執行役員 コーポレートファイナンス本部長

当期(2022年度)の取り組み

当期は、中国やロシアにおける地政学リスクの発生等により、資源価格の高騰等によるインフレの拡大など、先行き不透明な状況が続いたものの、価格改定効果や為替の影響もあり、前期比で増収増益となりました。

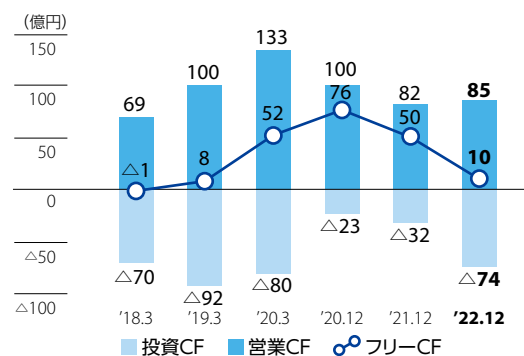
このような状況の中、原材料価格の高騰等に伴う売上債権及び棚卸資産等の増加や投資支出の増加はあったものの、増益により10億円のフリー・キャッシュ・フローを確保しました。また、金利上昇リスクに備え社債の償還資金として当社初のサステナビリティ・リンク・ボンドを発行した一方、借入金の返済・社債償還を進めたため有利子負債は前期末比13億円減少しましたが、投資支出の増加もあり、現預金を差し引いた純有利子負債は前期末比22億円の増加となりました。自己資本比率は増益と為替換算調整勘定の増加もあり、59%と前期末比3ポイント上昇しました。ROEに

ついては10%となり、2024年当初目標の8%を前倒しで達成しました。引き続き安定的に9%以上の水準を維持してまいります。

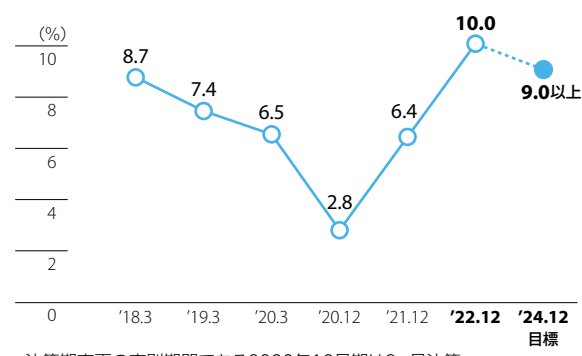
中期財務戦略・資本政策

第1期中期経営計画の初年度である当期は、経営の基軸を「中長期的な投下資本収益性の向上」に置き、対外目標であるROE向上のため、社内ではROICを導入し、その構成要素を現場のKPIに結び付けるためのROICツリーを策定しました。2023年度よりKPIマネジメントを実施してROIC経営をさらに推進してまいります。損益面では製品ポートフォリオの見える化と組み替えの検討及び不採算製品の見直しによる収益性の改善、資産面では棚卸資産の削減等によるCCC※1の改善や余剰資金を含めた資産圧縮に引き続き努めてまいります。また、将来の成長・収益性

● キャッシュ・フロー推移



● ROE推移



・決算期変更の変則期間である2020年12月期は9ヵ月決算。

の確保のため、半導体、機能性化学及び水素等の成長・新規分野を中心とした積極的な投資を継続的に実施し、長期経営ビジョンで掲げたROE10%以上の目標達成に向けて取り組みます。さらに、サステナビリティ経営に貢献できるよう、当期に起債したサステナビリティ・リンク・ボンドのSPT※2として掲げたCO₂削減率目標の達成等を通じ、社会価値の向上も目指してまいります。

キッツは、資本効率の向上と株主還元を重視するとともに、経営環境の変化やリスクへの対応のために、資本収益性に加えて資金調達力を加味した最適資本構成の維持を財務戦略・資本政策として掲げており、自己資本比率の水準を55～60%程度としています。

また戦略投資や社債償還への対応を含め、機動的な資金調達を実施できるよう、取引銀行各行と良好な関係を維持しています。加えて公募社債発行にも対応できる借入余力の確保に向けて、社債格付A格の維持に努めており、格付投資情報センター(R&I)のA-格付を取得し、総額200億円の新規社債発行枠の登録を行っているほか、日本格付研究所(JCR)のA格付も取得しています。

第1期中期経営計画の3ヵ年で創出する営業キャッシュ・

フローは、その大半を投資に振り向けることとしています。3ヵ年累計のフリー・キャッシュ・フローはプラスを維持してまいります。また、手元資金の縮減により資金効率の向上を目指しますが、主要銀行との間の短期借入に関する特別融資枠(コミットメントライン135億円)はリスク対応として引き続き維持し、手元流動性を確保してまいります。

※1 CCC:キャッシュ・コンバージョン・サイクル
※2 Sustainability Performance Target:達成すべき目標数値

株主還元

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題と位置付け、連結配当性向は、親会社株主に帰属する当期純利益の35%前後を望ましい水準としています。当期の1株当たりの配当額は過去最高の33円となり、連結配当性向は34.6%となりました。また、自己株式の取得については、財務安定性、手元資金流動性及び投資資金の状況も勘案し、適宜、検討してまいります。

2023年度の配当金は、1株当たり33円を予定しており、継続性と安定性にも留意した配当の実施を目指してまいります。

第1期中期経営計画 財務戦略・資本政策

- 経営の基軸を「中長期的な投下資本収益性の向上」に置き、対外的にはROE、社内ではROICを主要KPIとして目標管理を実施し企業価値の向上を目指す
- 将来の成長・ROE向上に向けた戦略投資の実行及び必要な資金調達を実施
- サステナビリティ・リンク・ボンドの起債等によりサステナビリティ経営をアピールし社会価値向上も目指す

ROE目標

2024年： 9%以上
2030年： 10%以上

- ROIC経営の導入： ①収益性改善(製品ポートフォリオの見える化と組み替え・価格戦略の実行・不採算製品見直し) ②ROICツリー展開とPDCA管理 ③CCC改善と資産圧縮

- 積極的な戦略投資：将来に向けた成長・収益性の確保

- 最適資本構成の維持と借入余力の確保：機動的な資金調達とリスク対応

営業キャッシュ・フロー 380億円 (2022～2024年累計)

投資

- 総投資枠 370億円(戦略投資枠 240億円)
- ▶ 半導体・機能性化学・水素・DX・環境対応
- ▶ M&A

株主還元

- 配当性向 中期方針 35%前後継続
- 自己株式取得は、財務安定性・手元資金流動性・投資資金の状況も勘案し適宜検討

借入返済・資金調達

- 不透明な経営環境に備え
- 戦略投資に向けて機動的な資金調達

最適資本構成目標

- リスク対応：自己資本比率 55～60% 銀行からの短期借入コミットメントライン(現状135億円)
- 社債格付：A格維持 ・現状格付：R&I→A- (2022年5月)；JCR→A (2021年11月) ・社債発行予備格付(R&I)：A- (200億円；2022年10月～2024年10月)